

令和2年度 第2回 南丹市健幸まちづくり推進協議会議事録

日時：令和3年2月15日（月）

午後2時～3時30分

場所：南丹市こむぎ山健康学園

【出席者】 船井医師会 木村茂委員 / 南丹市議会厚生常任委員会 前田義明委員 / 道の駅連絡協議会 中川亮委員 / 南丹市老人クラブ連合会 中澤義久委員 / 南丹市女性会 川勝久美子委員 / 南丹市スポーツ推進委員 山口裕之委員 / 南丹市食生活改善推進員協議会 谷幸委員 / Nantan 健歩会 山下秋則委員 / 健康経営をしている事業者 二九精密機械工業（株）八木工場 小泉美保委員 / 南丹市立小学校長 船越護委員 / 包括協定大学代表 明治国際医療大学 佐藤裕見子委員 / インターバル速歩を推進する者 明治国際医療大学 齊藤昌久委員 / 京都府南丹保健所保健課 細野幸代委員 / 南丹市社会福祉協議会 本多智子委員

【欠席者】 南丹市商工会 八木あけみ委員 / 市民公募委員 井上亜矢子委員 / 京都府口丹波歯科医師会 岡田英樹委員 / 南丹市PTA連絡協議会 内藤光穂委員

【司 会】 福祉保健部次長

1. 開会

【福祉保健部次長】

只今より令和2年度第2回南丹市健幸まちづくり推進協議会を開催させていただきます。私、司会を務めさせていただく南丹市福祉保健部次長の西田でございます。よろしくお願いたします。委員の皆様におかれましてはなにかとご多用にもかかわりもせず本協議会に出席を賜り厚くお礼を申し上げます。一部の委員さんで欠席の報告を頂いておりますけれども、開催をさせていただきたいと思っております。現在コロナによる緊急事態宣言の発令がされているところでございます。会議等も人数制限また自粛等も検討されている中ではございますけれども、次年度の事業推進に向けた取り組みを進めていく上での必要な会議と位置付けておりまして、しっかりと感染対策を講じながら開催をさせていただいておりますのでご理解ご協力をよろしくお願いいたします。開会にあたりまして木村会長よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

2. 会長挨拶

【会長】

お集まりいただきありがとうございます。今年度最後の推進協議会になりますので皆さ

ん活発な意見を出していただいて、ぜひ次年度につながるようお願いしたいと思います。
本日はよろしくお願いいたします。

【福祉保健部次長】

ありがとうございました。それでは次第に従いましてさっそく議事に移らせていただきます。本協議会条例第5条の規定によりまして会議の議長は会長が行うとなっておりますので以降の議事については会長に進行をお願いします。併せまして、本協議会につきましては条例第6条の規定に基づきまして委員の半数以上の出席がないと開催できないとなっております。本日の欠席の委員さんにつきましては、八木委員、井上委員、岡田委員の3名でございます。出席委員過半数に達しておりますので本協議会は成立していることをご報告させていただきます。それでは木村会長様よろしくお願います。

【会長】

それでは始めたいと思います。健幸まちづくり推進協議会活動報告として、まずタバコ対策についてお願いします。

3. 議事

(1) 健幸まちづくり推進協議会活動報告

①タバコ対策

【事務局】（資料1 令和2年度南丹市タバコ対策 報告）

【会長】

今の報告についてご質問ご意見いかがでしょうか。

3人テレビに出られて続いているということだから相談の時に出来るだけ放映してもらって、手をあげてもらって、そのままフォローしたら止められる可能性があると思いますがどうでしょうか。齊藤先生、明治国際の学生さんはタバコはどうですか。

【委員】

実際には調査したことないんですけど、学生の喫煙率より教員の喫煙率の方が高いです。

【会長】

そうですか、まず明治国際の先生方にテレビにはいつていただいてやってもらったらどうですかね。

【委員】

勧めておきます。

【会長】

他どうでしょうか。特になければ次に行きたいと思います。10歳若返るインターバルウォーキングについて齊藤先生お願いします。

②『10歳若返るインターバルウォーキング』

【委員】（資料5 muim 生き生きインターバル教室 2020 報告）

【会長】

ありがとうございました。齊藤先生の発表についてご意見いかがでしょうか。

この学生さんとかの発表とかをケーブルテレビに来てもらったらね、明治国際の学生さんて割と遠いところから来ている人が多くて、案内係といったらあれですけど、4年間過ごした爪痕をここに残してほしいなという思いもあって、そうするとここに来た甲斐もあるんじゃないかな、それは映像として残したらそれを持ち帰って学生さんの地域で何か地域おこしが出来るとかなと思うんですけど、極力発表の機会を皆さんに聞いてもらえたらと思ったんですけど。

【委員】

ありがとうございます。出来たら来年度から実践したいと思います。今年度はコロナ渦の関係でリモートでしたんです。先生が仰っていただいたことはすごくいいと思うし、来年する時には学生には発表会は南丹市内に放映するからといってしようと思います。出来るかはわからんけど録画すると、それについては市のケーブルテレビで放映されることもあるから承諾をくださいと、ぜひ実現させたいと思います。

【会長】

ありがとうございます。参加しているのは老人の方が多んですけど、南丹市の老人クラブの中澤さん、どうでしょうか。

【委員】

今年1年間はコロナの影響でいろんな行事がことごとく開催できなかつたんです。町老連なり市老連の関係で、人数たくさん集まる機会は避けてきたんですけど、各単老の集まりの少人数の中では、例えば歩こう会なんかは、2キロコース、3キロコースと標識を以前にたてて、これも継続的にやっておられます。このインターバル速歩に関しては、総会で単老の会長が集まるときにでも時間を取って講習をうけて、同じコロナでずっとやっているんなら長生きすると言われてるインターバル速歩をぜひ取り入れてやってみたらどうかなと思ってたんですけど、総会も全部、人が集まる機会をなくしたもんですので、この1年にも出来なかつたんです。来年度コロナの改善が出来たら、せつかくの機会ですので地区におろしていきたいなと思っています。

【会長】

僕も診療していて、老人の方の気持ちが萎えているというか、家で自粛しているというのは気持ち的にはおらはるので、なんか外に出てインターバルウォーキング出来たら気が晴れるのかな、しかも若い人と喋れたらもっと若返る気がしますけどね。南丹健歩会の山下さんどうでしょうか。今の取り組みを聞かれて。

【委員】

個人的にインターバル速歩は考えを聞いたとき行きたいと思っていました。回数が日程的に苦しいなと思ったのがありまして、なかなか大変でしょうけど何回も出来るやろうかと思ったのが正直なところですが。ただ健歩会もこのコロナでこの2年度はまったく行

事が出来ませんでした。1月から再開しようかと思ったところにまた宣言が出たために休止をせざるを得なくなりまして、4月から新しいかたちで出来たらなと思っております。昨年度の月例報告の中で一度こういうインターバルを取り入れた中で一回歩こうかなと考えていたことがありまして、コース的にしようと思えば、どこでもできるような、適したコースでやらなければならないなということで、結局思ってたことは出来なかったんですが、また来年度の計画に通常ウォーキングのなかにインターバル速歩を取り入れて、緊急事態宣言があげたら、もう一回設定してやってみたいなと思います。

【会長】

いつでも齊藤先生にきてもらえればね。

【委員】

今の山下さんの話の中で日程が合わなくてなかなか出席が出来ないとのことですが、別に来ていただかなくても月に1回ライフコーダ持ってきていただいてそこで出力するという事なんです。出席できない方には封筒を送りましてライフコーダだけ送ってきてもらってそれを印刷して返すということになっています。必ず出席しないといけないということはないんです。私一人じゃなしに他の人も一緒にやってるよというそういうグループみたいな繋がりみたいなものを狙いとしていますので、日程ありますけど気にしていただかなくても結構です。よろしくをお願いします。

【会長】

女性会の川勝さん、今のインターバルウォーキングについての取り組みはどうでしょうか。女性会としては。

【委員】

インターバル速歩じゃなくて、スティックもって歩くやつありますよね、ノルディックウォーキング。それを去年5月にしたんです。運動の機会みたいなのはいろんな多方面を考えて年1回はしているんですけど、また言ってみます。

【会長】

せっかくね、南丹市で取り組もうとしているので、インターバルウォーキングを取り入れてもらったらもっと盛り上がるかなと。

【会長】

企業側からみたインターバルウォーキングはいかがでしょうか。

【委員】

そうですね、企業のほうも、弊社は60歳で定年なんですけども、そのあと継続雇用ということで、9割以上の方が継続雇用で残っていただいている状態です。皆さん元気に力を発揮していただいているので、なかなか仕事だけでは健康が、最近体力がなくなったわとおっしゃられる方も中にはおられるので是非こういう取り組みをご紹介していけたらなと思いますし、先ほどの資料の中にあつたように学生さんと一緒にコミュニケーション取りながらやっていくというのはすごく気持ちの面で皆さん若返られたり張り合いが出来たり、すご

く今日一日楽しかったなという感じで帰られたんじゃないかなとお写真拝見していたんですけど、そういったやってみようと思えるような取り組みもうと思えるような仕掛けとか、そういったいろんな側面で皆さんがやっておられることが少しずつ効果が出てきておられるのかなと思って、ぜひコロナ禍で大変だと思いますが、もうじきワクチンもでてきますし、企業としても一刻も早く通常の状態で稼働していきたいなと思っていますので、そういった側面もあわせて一緒に取り組めたらいいかなと思います。

【会長】

ありがとうございます。この活動を支えてこられているスポーツ推進委員の山内さんいかがでしょうか。

【委員】

コロナ禍で、歩こう会であったりとかウォーキング活動をする機会というのが集まれていらっしやらないようですので、やはり各自でやっぴらっしやるか、家でゆっくりしていらっしやるか、出来ない状態にあると思うんですけど。せつかくこのインターバルウォーキング、南丹市で一人一人が主体的に運動出来るようにするにはどうしたらいいかなと思っただんですけど、集まってやったら面白いけど各自でやったらあんまり気持ちが乗らないなというのがあると思うので、それでも気持ちが乗るためにはオンライン化というか、ここにも書かれているITを統括するシステムというのは、今後期待できるのではないかなと思っております。あと主体的に運動するための仕組みとしてはなにかそういう人たちに働きかけるコーチのような役割の方がいればいいのかなと。それは難しい、コーチングとか難しいと思うのであれなんです、誰かに応援してもらえる仕組みがあれば見てもらっているということで、それが支援の、ここではライフコーダですかね、使われているのは。アプローチつけますとどんだけ活動したか分かるんですね。しかもメダルをくれる仕組みがありますね。活動をがんばったら、今日こんだけ出来たとか、ITの活用の仕方があるんだなと思って、例えばインターバル速歩のアプリとかができたらすごく面白いんじゃないかなと思っております。

【会長】

ありがとうございます。先ほど、二九の小泉さんも言ってくれたんですけど仕掛けをつくるという、例えば不法投棄をされるところに鳥居をおいたら捨てなくなると似たようなことを、こうしたらこう動くやろうみたいなそんな仕掛け、今言われたようなアプリなんかも僕はいいなと思いますけどね。齊藤先生そんな出来ませんかね。

【委員】

アプリはあるんです。けどiPhoneしかないんです。それは速歩の目標レベルに達した時間を測定してくれます。大体多くの活動量計は1日の活動量しか記録してくれません。1日の歩数とか。たまにヤマサとかから二等強度3、4、5かな、中等度の運動している時間は運動として記録してくれるものもあります。実際にライフコーダは高いんですけどね、古いから次に乗り換えようと思ってるんですけど、実際の0～9までの強度別に記録してくれ

るんでそれがいいんですね。歩数だけじゃダメなんです、健康づくりには。ある一定の強度を持たないと体力が伸びないし、一定の予防とかの恩恵ももらえないというエビデンスもありますので、サポートとしてはなかなかツールとして開発されにくいと思いますが、オムロンもだしていますけど。高齢者の方に聞いていましたら、携帯重たいなど、重たいライフコーダこんな小さいのだったらポケットに入れといたら出来るからこのほうが便利だなという声も聞いているのでそのあたりはすごく板挟みです。

【会長】

南丹市の西田さん。

【委員】

3,000円くらいでヤマサのはあったんですが、まだなかの検証はしてないんで。

【福祉保健部次長】

来年度に向けては考えていかなあかん部分もあるかなということで、次年度の予算要求等もしておりますので、また明らかになりましたらご報告させていただけるかと思います。よろしくをお願いします。

【会長】

他になにかご意見いかがでしょうか。特になければ次、生きる力を育む弁当の日の取組みよろしく願いいたします。

③生きる力を育む『弁当の日』

【事務局】（資料2 生きる力を育む『弁当の日』報告）

【会長】

ありがとうございます。この実践をされた園部第二小学校の船越先生、すこしお話をしていただけますか。

【委員】

園部第二小学校です。食というのは人間が生きていくうえで欠かすことができないのもので、生きる力に繋がるなということで、特に弁当の日の取り組み自身については、来ていただく食生活改善委員さんとかそういう人との関わりが大事であって、そういう人との関わりの中でその命をいただくであるとか、そういうふうな学びを追及していきたいというのが本来です。ただコロナの関係でご高齢の方来ていただいたりとか、いまコロナも少しずつ分かってはきているんですが、年間を通して考える時にはそのリスクのほうがより危険性が伴っていたのでこういう形で取り組もうということになりました。命をいただくことであるとか、そういう本物体験は出来ないんですけど、実際に生産されている方とかまた給食の献立、健康のほうの栄養士さん等々も来ていただいて、そういう方々によって命をいただいてかつ生涯にわたって、本校としては30歳になった時に自立と社会参加を出来る生きる力を培う、いま目の前の子どもたちに必要とする自立と社会参加というのはどんな現代であっても自分の食べるものを自分で作れると、そういうふうな巣立ちをしてい

かないとこれからの社会生き抜くことは出来ない」と教職員同士で話しをしていて、ただ単にお弁当を作って親子の会話であるとかを増やすだけではなくて、生きるひとつの、生き方ですよね、まだ小学生でそこまでいかないですけど、生き方に向き合わせるような指導でこれを取り入れているということで、今回は給食に取り上げてもらえて非常にリアリティーがありましたし、かつ他校であるとか、園部第二小学校6年生が考えた献立で他校の子にも食べてもらえるということですのでごくやりがいがあった。先ほどインターバル速歩で応援があることでよりやる気が湧いてくるという、そういう取り組みにも繋がっていると思います。今後とも食育というのはトピック的に取り上げるのではなくて、すべての教科の中で命をいただくであるとか、社会で食料生産自給率のこととかいろんなところで食に関することは出てくるので、強化学習のなかでも取り組んでいきたいなと思っております。

【会長】

ありがとうございます。今言われた通り弁当の日というのは子どもたちに力を育むということで、弁当を作って親子が仲良くするということではないので、こうゆう継続的な取り組みをしていくことによって自分でちゃんとできない家庭の子どもも自分で自分の食べ物は作れるという状況にする、あるいは先ほど30歳になっても自分で自立した、料理を作ることが出来るみたいなそういう人になることを目的にしていかなあかんのかなと思います。そういう意味で校長先生の力はめっちゃめっちゃ大きいと思うんですけど、ここに書いてある10月の時に献立、いろいろなものの切り方とかこういうのは誰かに来てもらってやったんですか。

【委員】

班ごとに考えたりしたが、越浦さんに来ていただいたりとか、学校の栄養士がきたりとか。本当だったら、いつもだったら食生活改善委員さんに来てもらってやるんですけど、今回そういう方々に対応していただいた。

【会長】

ということは外部からでも、校長先生がやろうと言われたら出来るということですね。

【委員】

そうですね。今年は本当だったら食生活改善推進員さんに、斜めの関係のひとつというか、親でもなく、子どもたちにとっては斜めの関係の人とやりたかったんですけどそこはコロナの関係で出来なかったところではあります。本当だったらお一人ではなくたくさんの方々と触れ合ってやるというかたちだったんです。でも出来る範囲で。関りがないと人とのコミュニケーションとか交わりがないと育ちというのはなかなかないと思うので。

【会長】

縦横斜めの関係というのは子どもを自立させるためには絶好の必要なことだと思っておりますので、お弁当の日をきっかけにやってもらうというのはいいことだと思っていて、食育レシピコンテストですかね、今の状況でなかなか外部講師が入ってこれない状況でいろいろ考えてもらって、その弁当の日の派生したひとつのカタチとして子どもたちに自分で

考えた料理が給食になると、それをすると自己肯定感が高まるはずなんですよ。そういう教育の仕方やり方を考えていくのは僕らの役割なのかなと思いました。ありがとうございます。

食生活改善委員さんの谷さん、今の弁当の日のお話聞かれてどうですか。

【委員】

私は八木なんですけど、第二小学校がうらやましく思えました。八木東小学校も梅干し漬けなど、順番に家々繋いで育んできたものを今年はなにも行けないということで残念だなと思うばかりで、各校長先生の話聞いて第二小学校のこういう活動をみせてもらって、やっぱり校長先生の思いで学校もいろいろ、それを自由に思うか思わないかほんと家庭科だけでないと思うんですよ、国語だって社会、理科だってみんなに食べることというのは関係すると思います。今年はコロナ禍の中で残念でしたけど、また他の3町にも繋げていけるようなことをぜひ食生活改善委員としてはしていきたいなと思います。

【会長】

ありがとうございます。今の状況で、保健所としてはどうでしょうか、細野さん。

【委員】

お世話になっております。保健所の細野と申します。思ってたので浮かんでこないですけども、やはりいつも思っているんですが南丹市ではこのようにお弁当の日をされて、そこから学校と地域の連携、また子どもたちの斜めの関係とかもあっていい取り組みがされているなど、保健所の食ですとか健康づくりの会議の中でもご披露いただいて管内の亀岡市や京丹波町のほうでも皆さん聞いていただいているところです。それぞれ各市町いろいろな取り組みをされている中ではあるんですけども、このような取り組みを考えて全体にも広げていけたらなと考えています。ありがとうございます。

【会長】

僕は道の駅の方にも小学生のつくった料理を取り入れていただきたいなと前から言っているんですけど、中川さんいかがでしょうか。

【委員】

いま給食の話も含めて聞かせていただきましたけど、僕ら小さいときそんなおいしいもの食べたことなかったんで、食パンとマーガリンと牛乳そんな印象だったんでうらやましいなと思って聞いていました。昨年から非常にお弁当の需要が高くなっていて、先ほどから言われていますコロナ禍の影響で外で食事を取るという機会が皆さんお避けになられています。テレビでも相当騒がれていますように観光客が大幅減と報道されていますが、実は道の駅自体は4月5月緊急事態宣言と営業自粛宣言の時こそ本当に少なかったんですけど、1年ならしてみますと2割から2割5分減くらいということで、そんなに減ってないという状況です。その中には地元の方と高齢の方は外食を控えられているので、お越しになってない方も大勢いらっしゃるんですけどそこは減少しているんですけど、逆に遠くには行かずに近くの道の駅でおいしい野菜を買ったりお弁当買ったりという需要が生まれたり、お越

しの方は南丹市だったら感染しないだろうと郊外へ向かわれる方がたくさんおいでになって、そういう関係で来場者数はさほど減っておりません。その中でも特売所、野菜を売っているところ弁当売っているところは、実は昨年とほぼ同数の売り上げと来場者がございます。非常に驚くべき状況がありまして、その中で南丹市で採れた野菜の新鮮なものを非常に多くの方に知っていただく変な意味で良い機会になった年でございます。あと合わせて、その弁当の需要が増えているというところで、またこれも地元の特産物を知っていただく良い機会になりましたので、まだまだこの先もこの状況が一気に改善するということは見込めませんので、こういう機会に地元の良い食材を知っていただいて健康に役立てていただきたいと思います。実は3月に向けてお弁当を一生懸命開発しております。ぜひまた3月にはチラシが入ると思うのでまた食べていただきたいと思います。そんな状況でございます。

【会長】

ありがとうございます。お弁当を考えておられるのであれば、食育レシピこれをね、使ってもらって誰々さんの考えたレシピですというのを売りにしてもらえればその子の親戚は絶対買う。

他にいかがでしょうか。次はビデオですかね。

4. その他

・南丹市健幸・食育レシピコンテスト取組報告

【事務局】（資料3 南丹市健幸・食育レシピコンテスト取組報告）

【会長】

ありがとうございました。このコンテストに参加された川勝さん、いかがでしたか。

【委員】

小学校の子はお母さんと一緒に考えてこられたし、中学生の子はたぶん自分でおおかたしたはるんやと思って、年齢に応じたものが、家で親とか自分で考えながらまた季節の食品とか色とかいろんなことを考えてそれぞれ良いのが出来ていました。この取り組みが家庭の中のコミュニケーション、またテレビで放映されて南丹市内の人みんなに見てもらっていたと思うんですけど、そういうことからこの取り組みというのが年々続けて取り組まれて南丹市内全域で子育てのひと役に立てればと思います。

【会長】

ありがとうございます。谷さんいかがですか。

【委員】

私も食改の方から参加させていただきました。ほんとに感心ばかりで、よく考えてくれたなという思いで、審査もはじめてだったので、食べて口ゆすいだという感じで、経験させていただきました。それは本当に良い事業だったなと思うのと、南丹市以外の方にたまたま会うことがあって、南丹市って凄いこととしてはるねって私がしたみたいに褒めてもらって。そのコンテストされるころまでは何処でもあるかもしれないけど、それを給食のメニュー

にされたのはすごく、ちょうどメニューがこうしてされましたよってここにも書いてくれたはるけど、その日だったんですよ。そしたら私あんまり、おたくどこの方ですかと聞こうかと思ったんですけどそこまでよう聞かへんし、南丹市はすごい食育に関していいこと、また私おしゃべりやから、ほんとうは小学校行ってお弁当の日とかでやってたり梅干し漬けたり切り干し大根したり小学校の間に生きる力を育むためにやってるんよと自慢させてもらったんですけど、他のところから、新聞に出たからそういうふうにしてもらえて、これは良かった、それ以上にメニューに加えられたということは本当に素晴らしい、これからもっともっと膨らんでいくと違うかなと、今道の駅の中川さんが仰っていたようにこういうメニューを地域の中で発展させてもらったら嬉しいです。

【会長】

ありがとうございました。こういうことを考えると給食のメニューにいれると考えたら、社協の宅配サービスとか。

【委員】

南丹市社会福祉協議会の本田です。全然考えてないです。社協の方で市の事業で高齢者のひとり暮らしの方や高齢世帯の方の昼食や夕食の配食サービスをお手伝いさせてもらっているんですけど、そうですね、業者さんが入っているので、提案できる時があれば。

【会長】

注文出すほうやから言えると思うよ。

【委員】

わかりました。

【会長】

明治国際の佐藤さん、学食はどうでしょうか。

【委員】

ありがとうございます。是非取り入れられたらまた広がりが出てくるかなと思うんですけど。私はお弁当の日の授業、ちょうど10年前の健康づくり推進協議会で木村先生ほんとうにすごく、ビデオをご用意していただいて何とかしてこれを南丹市で取り組みたいなというメッセージをみなさんに発信されて、こうしてやっぱりなかなか広がるのが難しかったなと、今思うとね、とても大変だったと思うんですね。食改さんとか各学校とかでなんとかいろんなあの手この手で給食に入って行って取り組んでこられたと思うんですけど、そういった歩みというのが少しずつ少しずつ点が面になって、今年はこのようなかたちでコンテストをしてそれで表彰されてそれが給食だったりいろんなところで取り上げられるような取り組みになって進んできたというのを、外からしか見てなくてあれなんですけど、とても素晴らしい取り組みになったなと、木村先生の思いが結実したなと。将来10年先まで考えると子どもたちの生きる力とか自己肯定感とかそういったものを育てるところ、もうひとつは地域の中でいろんな分野の方々を取り入れていってもらって、面として広がっていくというところとても素晴らしい取り組みがこうやって進んできたんだなと感じて

います。

【会長】

ありがとうございます。二九の小泉さん、二九では自分で弁当を作られますか。

【委員】

業者さんの弁当を注文できるのと、うどん、そば、カレーライスは毎週1ヵ月注文して、会社の福利厚生として補助が出るので、大きなかき揚げうどんとか個人が食べられたりするので、それを利用している人と、あとは自分で持ってくる人とですね。

【会長】

業者の人に頼んで限定10食とか。

【委員】

先ほど園部のなかで、道の駅とかででたらきつと買っちゃうなと思って、すごくおいしそうだし。南丹市、お米もすこやか米とかそんな名前を出ている子育て受けするいいお米と宣伝されているのでそのお米とお子さんが考えられたメニュー、他のところから来られた皆さん興味持たれるかなと。すごく素敵な取り組みだなと思いますし、先ほどお話あったように一朝一夕ではここまではなかなか出来ないと思うので、ぜひこれをこれからもメニューのほうも広がっていったらいいなと思いますし、私が子育てしているところにこんな人があったら疲れているお父さんお母さんの為になってよかったとか絶対泣いちゃいますね、すごくいい取り組みだと思います。これからもぜひ頑張ってください。

【会長】

ありがとうございます。中川さんよろしくお願ひします。

【委員】

レシピってあるんですか。

【事務局】

はい。子どもたちが応募してくれたレシピがございます。まだ細かく精査して献立メニューにまでは出来ていない、ほぼ試作審査の時には手直しをせずに出して味が整っていたのでまたきっちりしたものがだせたらなと思っているところです。

【委員】

教室に来ておられる、小学生から見たおじいちゃんおばあちゃん世代に、こんな小学生考えていたよ作って見たらとかレシピがあったら紹介できるかなと思ったんです。

【事務局】

そうですね、ぜひまた検討していきたいと思います。ありがとうございます。

【会長】

チラシで配布したらいろんな人が作るかもしれないよ。大学とか学校とかでもいいし会社でもいいし。

【委員】

ホームページにあげてもらっていてもいいし。

【事務局】

また検討します。

【事務局】

レシピ見てまた「和パオライス」とかはぜひ、私もおもわずレシピ貰って作ったようなことですが美味しくかったです。商工会さんが今日お休みなんですけど、商工会が元気が出ましたと、またコロナが収まってイベントが出来るようになったら、お城祭りとかそういう時にぜひ試食会とかいろんなことをして、これをもって元気を南丹市に広めていきたいということをお願いしておりました。それから今日見ていただいておりますようにこの試食の優秀作品については商工会だよりとかでみんなに紹介したいと思いますのでということをお願いしておりますので、商工会もいま飲食業については元気をなくしてはいますが、こういうことをもってまた元気に頑張っていきたいと言われていましたのでお伝えしておきます。

道の駅の中川さん、一生懸命見てくれたはることおもったら、お弁当のメニューにと思って見てくれたはるなと思っております。

【委員】

3月から売ろうかなと、まじめに考えていました。うちの職員の息子さんが考えられたので。3月の販売を目指して頑張ります。

【会長】

ありがとうございます。それではビデオを。

～南丹 CATV 特集のビデオ視聴～**【会長】**

その子はすごい自信になったと思いますね。こういう子どもを増やしていくためにはこの取り組みをもっともっと活かしてしていければいいかな。この子は288分の1なんやけど他の287はどうなんやということになるんですけど、最初に書類選考があったらんですけど、書類選考で落とされたのは仕方ないなと思っているかもしれないけどじゃあなんで採用されないのかなと選考の時にちょっとだけ選考した人がこれは良かったけどこれがもうひとつやっただ次頑張ってねみたいなのを書いて返してあげたらね、来年もまたやってみよかなという気になるよね。そういったフィードバックをしてあげたらいいのかなと思いましたので、次取り組みされるときには必ず応募した人にはちょっとしたコメントでいいので、なんで採用されたかされなかったのか、いいところは絶対入れといてちょっとこれは残念だったねみたいなの感じで結構ですので、出来たらそういうふうにしてもらえたら有難いなと思います。

今のビデオとか今の話し合いとかでなにかご意見どうでしょうか。船越先生、小学校のほうよろしく願います。では、次に行きたいと思います。南丹市健幸アンバサダー養成講座取組報告です。

・南丹市健幸アンバサダー養成講座取組報告

【事務局】（資料4 令和2年度 南丹市健幸アンバサダー養成講座 報告）

【会長】

ありがとうございます。今健幸アンバサダーの活動は通信を配布するというのが役目になるんですか。僕としては、個人がアンバサダーがこんなことしましたよみたいな活動報告があるといいのかなと思うんですけどそれはどうですか。全員が全員、すごい活動をしているわけじゃなくて、おそらくある一部の人が頑張っとなにかをしておられる可能性がありますよね、やってないかもしれないけど。やっておられたらその人を取り上げて通信のほかになにかこの人はこんだけ頑張っていますよという活動報告があればいいのかなと思いました。

【事務局】

通信の発行の際におもてにつける保健医療課としての文書とかも作成しておりまして、そこにアンバサダーとしていま取り組んでいただいている方のお声なんかを載せさせていただいています。また、とくに頑張っ活動されている方の活動内容についてはまたご報告、報告とまではちょっとまだです。

【会長】

その人が私はこんなふうにしていますとだした方が。保健医療課がこの人こんなんですよというよりかはいいかなと。主体性があって。

【事務局】

そうですね。また、はい。頑張っ取り組んでいただいている方と連携して考えていきたいと思います。ありがとうございます。

【会長】

明治国際医療の佐藤さん、学生が関与することはできますか。転ばない体づくりとかね。

【委員】

健幸づくり推進協議会の取り組み、市町村の取り組みそういったものに是非参加させたいんですけども、看護学部の場合は3・4年生は実習にずっと行きつきりになったりそういうところもあったり。なかなかこういう取り組みに計画的に出席させようと思うと半年ぐらい前にそういったものがあれば徐々に学生たちをそちらの方に、特に保健師コースもありますので、そういう実習とか講義とかを受けながら参加させていくと仕向けることは出来るんですね。急な時にはなかなか難しいかなと。計画的に立ててもらって。送り込みたいなという気持ちはあるんですけど、またうまく連携しながらと思います。

【会長】

他にどうでしょうか。だいぶ時間になったんですけど前田さんに今までの大体見てきた感じの話しを。

【副会長】

最後にですけど、この全体を通して活動とそれぞれいただいた中でタバコについては、齊藤先生言われていたように学生より先生の方が多し、これはなにか要因があるのかなと思いますし、喫煙の相談会においては参加者3名ということで、この3名も今禁煙の継続中と。これはぜひ3名欠けることなく継続していただきたいなと思います。そしてまた10歳若返るインターバルウォーキングのところにおいては、今様々な分野でITを活用した取り組みを行っておりますので、そういう部分でなにか仕掛けていくところはないかという話もできましたし、ここにおいては本市による毎予算要求を待ってですので保健医療課の方またいろいろと内部でお考えいただきたいなと思います。それとですね、生きる力を育むということで学生ですね、その取り組みをしていることを校長先生いろいろとお話をいただいたんですけど、学校として学業で勉強を学ぶだけではなく食の中で学んでいくということが多々あると思いますので、そういう部分における後押しを先生方も一丸となって取り組んでいただきたいと思います。そのためには行政、学校、企業、商工会かつ関係する方々がひとつになって取り組むことが必要だと思いますので、少しずつですけど成果を出せていければなと思っています。そしてまたその他の部分で3つ項目があって、食育レシピコンテストのことでございました。これは288作品の多くのレシピが小学校中学校において考えられました。多くのレシピ、バリエーションがあって私は良い報告がいただいたなと思っています。先ほども道の駅での取り組みの中に、その中ひとつでも活かさせていただいたら有難いと思っていますし、私が思うのは一般家庭においては長く一週間のメニューがあります。また一週間たったらそのメニューがでるというそういう可能性もあり繰り返して、288レシピというのはバリエーションが多くて大変喜ばしいなと思っています。そして健幸アンバサダーの養成講座の取り組みということで、私も参加させていただきました。前半だけでしたけど最後まではやれなくて。いろいろな取り組みがあるということでこれも今後、健幸ポイント等ございますので、わたしも昨年より体重がまた一段と低下したと、健幸ポイントあがったのかなと感じております。そのようなことで全体的にいいですと私からの今日の様々な活動とそしてご報告における感想でございます。

【会長】

ありがとうございました。それでは時間となりましたので私の方、司会を終わらせていただきます。

【福祉保健部次長】

木村会長様ありがとうございました。また前田副会長におかれましては、まとめということでありがとうございました。本日は非常に多くの方にご意見なりをいただきました。来年度に向けて振り返る部分を取り組んでいきたいなと思っていますのとあわせて、なかなかすぐには出来ない部分もありますけども会長さんのほう10年やっていただいた中でこうやって少しずつですけど成果が出てきていることに嬉しく思っていますし、今後も引き続きご協力いただきますように委員の皆さま含めてよろしく願いいたします。それではせつかくの機会でございます。皆さまからなにかございましたらご報告いただけたら

と思います。ございませんでしょうか。とくに無いようでしたら閉会にあたりまして前田副会長の方からご挨拶いただきたいと思います。よろしく願いいたします。

8. 閉会

副会長挨拶

【副会長】

先ほどに引き続いて閉会の挨拶ということでございます。今日は大変お昼間お忙しい中それぞれの皆さんご苦勞様でした。令和2年度ということで第2回の南丹市健幸まちづくり推進協議会含め様々な活動報告、そして取り組みをいただいたわけでございます。このことによって今年度のこの活動というものが来年度につなげていただけますようお願いを申し上げます。本日、本日の協議会を閉じさせていただきたいと思っております。大変本日はご苦勞様でございました。